

令和7年3月5日、麻妻大使は、ウイントフック市内メルキュールホテルにて、65歳を迎えられた天皇陛下の誕生日祝賀レセプションを開催しました。

本イベントには、ムシレンガ国際関係・協力大臣、カレー教育・芸術・文化副大臣、ムイニヤングエ保健・社会サービス副大臣、シブンゴ環境・森林・観光副大臣、アムセ情報・通信技術副大臣、ジャガー・ジェンダー・貧困撲滅・社会福祉副大臣、ウイオーオー・ジェンダー・貧困撲滅・社会福祉副大臣、ガバハップ中央銀行総裁、州知事など政府関係者、外交団、企業、学術界、文化界、スポーツ界、メディア関係者など大勢の方々に出席いただきました。

麻妻大使は、2月8日にヌヨマ初代大統領が逝去されたことに対し、ナミビア国民及びご遺族に対し心より哀悼の意を表しました。また大使は、日本とナミビアは地理的には離れているものの、両国の関係は良好であり、これまでに日本は総額247億1千万円（約30億ナミビアドル）の支援を行ってきた旨述べました。また、本年8月に横浜で開催される第9回アフリカ開発会議（TICAD9）に触れ、両国関係がさらに進展することの期待を表明しました。最後に、今年には日本とナミビアの国交樹立35周年、また在ナミビア日本国大使館開設10周年にあたり、政治・経済分野だけでなく、文化・スポーツ分野でも交流をさらに促進していきたいと述べました。

主賓のムシレンガ国際関係・協力大臣は、挨拶の中で、日本がナミビアの経済発展において重要な役割を果たしており、ナミビアは長年にわたる二国間協力に感謝していると述べました。さらに、深刻な干ばつ緊急事態に対する人道支援の一環として、日本が50万米ドル（約1,000万ナミビアドル）をナミビアに供与したことに対し、感謝の意を表明しました。また、昨年に東京で開催されたTICAD閣僚会合に出席するため来日し、日・ナミビア外相会談を実施したことにも触れ、ナミビアと日本の関係は引き続き発展し、深まっていると述べました。最後に、日本の企業関係者に対して、直接投資やナミビアの企業との合弁事業など、ビジネスチャンスを引き続き模索してほしいと呼びかけました。

式典では、日本から参加した尺八演奏家、入江要介氏による演奏が行われました。

また、JICA ナミビア支所の協力により、日本のナミビアに対する経済協力活動を紹介する広報ブースが設置されたほか、大使館による日本文化ブースでは、来場者の方々に日本酒を試飲する機会が提供されました。



写真1：ムシェレンガ国際関係・協力大臣によるスピーチ



写真2：ムシェレンガ国際関係・協力大臣を歓迎する麻妻大使夫妻



写真 3、4 : 会場の様子



写真5：尺八演奏家・入江要介氏による演奏



写真6：広報文化ブース



写真 7、8 : 日本料理の提供



写真9：日本酒の提供